DTP／CCMS組版の変遷

QuarkXpress
1987年Quark社から発売

Unicode・OpenType機能への対応
Illustrator・Photoshopのai、psdに対応
2009年（Ver8.2）

PageMaker
1986年Aldus社から発売

1994年にAdobe Systems社が
Aldus社を買収。

InDesign CS2発売により、PageMaker 7.0以降の開発を中止
（Mac OSXでの開発）、PageMakerユーザーには**InDesign CS2（現在はCS4）へのアップグレードを推奨。**

InDesign
1999年Adobe Systems社から発売

FrameMaker
アメリカの物理学者が論文作成用に作成し、普及。
1986年Frame Technology社が創設され、
FrameMakerとして発売。

+SGML
1995年 Adobe Systems社が
買収

XML
2002年

DITA
2005年（Ver7.2）

DITAフル対応
2009年（Ver9）

1990 **2000** **2010** **2020**

Illustrator
1987年Adobe Systems社から発売

FreeHand
1988年 Aldus社から発売

2005年 Adobe Systems社はMacromediaを買収。
FreeHand MX発売を最後にFreeHandの開発を中止、
Illustrator　CS3へのアップグレードを推奨。

Photoshop
1988年Adobe Systems社から発売

CorelDraw
1989年Corel社から発売

日本ではメジャーなDTPソフトではないが、ヨーロッパ、アメリカなどでは、
日本に比べ普及しているソフト。
Adobe Illustratorと同様の機能がある。

SCHEMA ST4
COMPLEX DOCUMENTS MADE EASY.
NAVIX

CCMS（SCHEMA ST4）
Quanos（旧SCHEMA ）と日本でのセールスパートナー契約を締結、CCMS（SCHEMA ST4 ）の販売開始。SCHEMA ST4での組版サービスを提供し、PDFとHTML出力サービスを開始。

SGML：Standard Generalized Markup Language
1986年ISO8879として制定。
出版社、政府、航空業界などで採用。
DTDにより論理的な文書構造を記述するようにした文書管理言語。

HTML：Hyper Text Markup Language
1990年WWWの誕生。

XML：Extensible Markup Language
1998年2月に、XML Version1.0 が正式勧告。文書だけでなく、電子データ交換などの機能も持つ。
XMLにより、文書の標準化、自動化、再利用が普及。

DITA：Darwin Information Typing Architecture
2005年5月、OASISにより承認されたXMLベースの文書管理仕様。